

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570400236
法人名	有限会社 ひかり苑
事業所名	グループホームひかり苑日南
所在地	宮崎県日南市大字楠原字下耕整19番地 (電話) 0987-25-9494

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年7月23日

【情報提供票より】(19年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 26日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 7人
職員数	7 人 常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		600 円	

(4) 利用者の概要(7月 1日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.83 歳	最低	75 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山元病院、新木医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>飫肥城から近く、ホームの前には大きな川が流れ、落ち着いた住宅環境、雰囲気のある場所にホームはある。広い敷地の中に既存の一軒家を改修したホームはごく普通の家庭の雰囲気にあふれ、利用者は表情豊かに日常生活を過ごされている。3つの方針(主体性・自己決定、やすらぎ、地域との交流)を掲げ、日々ホーム全体で取組む姿勢がみられる。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>緊急時の応急マニュアルの整備をし、また職員研修については、年間の計画が作成され職員研修の改善がみられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の外部評価の機会を、今後の改善に取組む強い姿勢が感じられる。自己評価に当たり職員全員での取り組みが薄いため、全員での日常業務の振り返りとして活用してほしい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>行政・家族・福祉関係者と活発な意見交換が出来ている。SOSネットワークの活性化などホームから提案・発信も行われ、また家族からの意見も出され、対応検討が積極的に行われている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議などで家族から活発な意見が出されており、対応が積極的に行われている。会議に参加できない家族からの意見・苦情については、意見箱の設置など、今後の取り組みに期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域との連携に努めている。環境もよく、気軽に訪問できるホームの雰囲気があるので、さらなる地域の方と利用者の交流の機会を工夫し実践してほしい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年4月に見直しを行い、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念をわかりやすい言葉で作成・掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自己決定・やすらぎ・地域との交流を理念として掲げ、全職員が理念に沿ったケアの実践を強く意識し、日々取組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域との交流・連携を推進している。		利用者の地域交流の取り組みはまだ行われていないため、少しずつでも利用者も地域との交流が出来るように期待したい。またホーム便りなど作成・配布することも地域との交流において、検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解し、前向きに改善に取り組もうとする姿勢がみられる。	○	評価結果については職員全員と改善への取り組みを共有・検討し工夫されるよう期待する。日常業務の振り返りとして活用してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回の定期開催を行っており、行政や警察関係者、区長・民生委員・包括支援センター職員、家族などの積極的な参加が行われ、家族から終末期の対応についてや、ホームからSOSネットワークの活用など、有意義な意見の検討がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	規程内容の相談やSOSネットワークでの関係強化、その他管理者が市町村と連携を積極的に図り、ケアの質の向上にも活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほぼ月に2回ほどの家族の訪問があり、その都度、日々の様子など報告をしている。	○	金銭管理については台帳の確認が毎月されていない利用者・家族があるため、トラブルを避ける意味でも、最低1ヶ月に1回は確認していただき、サインをしてもらうなど、対応に期待する。またホーム便りなど作成・配布することでより家族にホームでの暮らしを把握していただけたらと思うので、検討してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等にて家族より意見が出ることがあり、また家族がこられた時に声をかけるなどの取り組みを行っている。	○	意見箱や苦情箱の設置など家族からの意見を出しやすくする工夫をしてほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員雇用条件等の見直しを行い、昨年からは安定している。法人内の他事業所への移動等あるが、馴染みの職員との関係を最小限に抑えるような配慮(利用者へのフォローなど)を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、研修参加後には復命書の提出など取組まれている。	○	復命書を活かし、伝達講習の機会をつくり研修に参加した職員から他の職員、ホーム全体での共有を図り、ホーム全体の質の向上へつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協議会への参加などで他のホームとの交流は持たれている。	○	近い他のホームなどと職員の相互交流・勉強会を行うなど、さらなる今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの見学や自宅への訪問など行っている。基本的には管理者の「本人の納得がなければ」という意識の元で、サービス提供を行う際には納得が得られるよう配慮し取り組まれている。		サービス利用に不安的な場合など、馴染みの人に来てもらい安心感を持ってもらったり、数回、食事を共にしたり午前中のみ共に過ごしたりと創意工夫し取組まれることに期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として捉え、料理方法を習ったりなど、共に支えあう関係構築がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	花が好きな利用者のために花壇の設置や、タバコの好きな利用者のために喫煙場所の設置など、一人ひとりの意向に沿えるように工夫している。		更なる利用者の姿や意向の把握をすすめるため、センター方式を活用したり積極的に進められることに期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規に計画を作成したり、区分の変更時、更新時等に家族の参加があり、意向や希望を活かした計画作りがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に評価を行っている。現状、状態の変化や要介護度変更時等に介護計画の見直しを行っている。	○	状態の変化のない場合にも、月に1回は計画の見直しに取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームとして徘徊時対応のSOSネットワークの活性・強化を行政等に発信し、ホーム内だけのケア以外の問題提議など行っている。		今後、認知症の広報や地域の方からの相談を受けるなど、少しでも理解が得られるような取り組みにも期待したいし、地域・入居者・家族の要望に応じた機能の展開に期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医の診察が2ヶ月に1回行われている。その中で健診項目も実施されている。		訪問看護等との連携も視野に入れた今後の取り組みに期待する。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に本人・家族と話し合いを持ち、方針の共有を図っている。		具体的な事例等説明することにより、分かりやすい形で家族の理解が得られるよう工夫してほしい。また一度だけでなく、何度も家族との方針の共有が必要に思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮は職員も強く意識しており、損ねるような言動は見られない。掲示してある写真には名前を入れないなど、個人情報の保護についても同意の範囲内で適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のホームでの生活の中で、出来る限り時間に追われることのないよう、職員が特に意識し臨機応変な対応を心がけて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝うことが好きな利用者は配膳の手伝いも行っているが、職員側が提供しているという感が否めない。昼食は利用者が終わった後に職員が見守りを行いながら摂っている。	○	特に女性の利用者など、食事の役割を担ってもらえるなどの取り組みをしてほしい。また職員が一人でも二人でも利用者と一緒に食卓を囲めるような工夫をしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の曜日、時間帯(午前・午後)の設定で入浴が行われている。		利用者の希望・意向に沿って、また状態に応じて入浴できるよう今後の取り組みに期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、洗濯干し、食事の準備や片付けなど、利用者それぞれの得意分野で力の発揮が見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームで外出の機会を設けるなどの取り組みや、家族の協力により外出の機会作りがされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵、門扉の鍵とも掛けておらず、自由な出入りとなっており、開放感がある。鍵を掛けないケアの提供のため、全職員が業務中も玄関の出入りを意識しており取り組まれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各災害や救急時等のマニュアルが整備され、連絡の方法など丁寧に示されている。	○	避難訓練の実施がされていないので、マニュアルに沿った、また地域の方の参加も視野に入れた訓練の実施をしてほしい。今年度の計画が立てられているので、計画に沿った訓練の実施に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員が見守り・介助しながら偏食の無いように声かけや皿の取替えを行っている。摂取量も把握している。	○	水分摂取量の記録がないので、利用者状態の共有のためにも記録として残してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の一軒屋を改修した建物であり、ごく普通の家の雰囲気で落ち着ける。廊下に掲示物も少なく、催しの写真が掲示しており、居心地の良い空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの写真や箆笥、仏壇、テーブル等、居室にあり心地よく過ごせるような配慮がみられる。		